

知財教育分科会セッション

◆ 知財学会 21 年、知財教育分科会 16 年目に考える ◆

【話題提供者(50 音順、敬称略)】

渥美 勇輝(三重県鈴鹿市立天栄中学校)

石橋 一郎(北九州市立大学)

糸乗 前(滋賀大学)

菅 結実花(旭川工業高等専門学校)

杉浦 淳(大阪工業大学)

【総括・講評】

木村 友久(帝京大学)

【司会】

世良 清(名古屋文理大学)



図1 知財教育研究

日本知財学会知財教育分科会は、2007年2月にキックオフし、以来16年にわたって知財教育についての学術研究を推し進めてきた。研究成果には、2013年には、『知財教育の実践と理論—小・中・高・大での知財教育の展開』(白桃出版)、2020年には、『知財教育分科会10周年記念出版「知財教育研究」』(NextPublishing Authors Press)(図1)の2冊の出版がある。

2022年の第20回年次学術研究発表会では、「知財学会20年、知財教育分科会15年の節目に考える」を実施し、キックオフミーティングで発起者となった幹事や、これまでに代表・副代表を務めた幹事によって、活動を振り返った。引き続き、第21回年次学術研究会を開催する2023年は、「知財学会21年、知財教育分科会16年目に考える」をテーマに、次の時代の知財教育分科会の運営を担う幹事を中心に、今後の展望を図ることとしたい。セッションの進行にあたっては、フロアからの積極的な発言を歓迎する。

日本知財学会誌第19巻第3号には、「知財教育分科会15年の歩み—知財教育学の確立に向けて—」を著した。以下、その一部を引用する。

1. これまでの知財教育分科会の研究活動

「知財教育実践・研究報告の動向」を、2022年8月開催の第63回知財教育研究会までの235件(知財教育分科会担当の定例研究会を含む)を、筆頭発表者、対象、内容で分類した(一部で重複して分類計上した場合あり)。

1.1 知財教育研究会の筆頭発表者の所属

実践・研究発表者は、単独の場合と、連名の場合があるが、後者は筆頭者で、発表者を分類した。大学・高専に所属する教員・研究者が113件とほぼ半数であり、以下、幼小中高校に所属する教員が58件、企業や官公庁に所属する者が42件、学生・生徒27件であった

知財教育分科会セッション

◆ 知財学会 21 年、知財教育分科会 16 年目に考える ◆

学生は、大学院生・学部学生、社会人学生など、生徒は、教員に指導される高校生と多岐に及んでいる。今後も、学生・生徒による知財教育研究を支援する方向性を重視したい。

1.2. 知財教育研究会発表の主な対象

知財教育実践・研究の主な対象は、学校種を特定しない知財教育全般としたものが 64 件と多く、以下、大学 46 件、高校 30 件、中学校 28 件、高専 25 件、小学校 19 件と続く。幼稚園は 1 件あった。学校教育体系全般に及んでいる。知財教育分科会発足時は、小学校の知財教育実践報告は極めて少ない状況であったが、近年は、増加傾向にある。また、地域に関連するものは 22 件、行政や企業に関連するものは 16 件あった。

1.3. 知財教育実践・研究発表の主な内容

知財教育実践・研究の主な内容は、知財教育全般にわたるものが、127 件と過半を占め、以下、産業財産権全般 17 件、著作権 15 件、特許権 13 件と続く。また、2017 年、内閣府に知財創造教育推進コンソーシアムが設置され、以降、「知財教育・知的財産教育」と「知財創造教育」が、混在している。

その他の 56 件(図 2)は権利としての「知的財産権」にとらわれない知財教育の本質的な存在、または隣接領域に属するもので、今後の知財教育の方向性を示すものであろう。

創造性教育, アイデア発想, 発明, 法教育,アントレプレナー, ビジネス創生, イノベーション, 地域経済, 地理的表示, 地方創生, 地域活性化, 知財経営, 商品開発, 技術教育, ものづくり, 研究, 情報教育, e-learning, 生物多様性

図 2 知財教育実践・研究発表で見られるキーワード

2. 知財教育分科会の新しい展開

16 年目を迎えた知財教育分科会では、先に抽出された知財教育実践・研究発表で見られるキーワードを基に、「知財教育」と「知財創造教育」の共通点と相違点を明らかにし、学校教育現場への教育実践のいっそうの普及推進を図ることによって、知財教育分科会の新しい展開を目指したい。さらには、2027 年の「知財教育分科会 20 年」に向けて「知財学」の一面に位置づけるとともに、教育学の大系としての「知財教育学」の確立を目指したい。

【参考・引用文献】 世良 清、岡田 廣司、片桐 昌直、木村 友久、谷口 牧子、本江 哲行、松岡 守、村松 浩幸「知財教育分科会 15 年の歩み—知財教育学の確立に向けて—」『日本知財学会誌』第 19 巻第 3 号、pp72-81、2023